

ランタ島に滞在して、リーズナブルで極上

ランタ島は、日本人にはまだ馴染みのないリゾート地。クラビ県の南端、アンダマン海に浮か ぶランタ・ヤイと、ランタ・ノーイという二つの島からなる。このランタ島を中心とした周囲52 の島々によるランタ諸島は、その全体が海洋国立公園に指定されている。海岸線にはリゾートが 並び、雰囲気は素敵なのに派手な賑やかさはなく、落ち着いた感じ。喧騒から離れた静かなリゾー

トを求めてやってくる欧米のダイバーに人気がある。ランタ島から向かうダイビングエリアは、青 から注目されていたポイントばかりで、実力は世界的に認められている。シーズンは、10月から 6月末までの半年。そのうちのハイシーズンは、11月から4月末まで、天候も海況も安定する。リー ズナブルに行ける新しいディスティネーションに是非、注目して欲しい。







アンダマン・ダイブ・アドベンチャーで 日帰りダイビングを楽しむ

ランタ島に滞在して、初めてのダイビング。今回、お世話になったアンダマン・ダイブ・アドベンチャーは、日替わりでデイトリッ プのボートダイブが用意されている。主な行き先は、コハー、ヒンデン・ヒンムアン、ピダ、アネモネリーフ&シャークポイント、 ピピなど。タイでのダイビングは、スミラン諸島などが有名だが、南エリアに位置する、これらのポイントもとてもポテンシャ ルのある海として、世界中のダイバーから親しまれている。それぞれに個性があり、毎日、日替わりで異なったダイビングエ リアを楽しむことができる。コハーへのデイトリップは、基本的に2ダイブで、港から船で片道約1時間半。7時30分にダイビ ングセンターに集合して、朝食は船の上、1ダイブ後フルーツなどのおやつ、2ダイブ後ゆっくりと戻りながらのランチとなる。 そして、リゾートに戻ってくるのはだいたい3時くらいとなる。





























コハーの「コ」は島と言う意味。 だから「ハー島」と言う名のポイント

初日にエントリーしたのが、コハー。コハーの「コ」は現地タイ語で「島」、ハーは「5」と言う意味。直訳すると「五つの島」と言う意味だが、実際には6島あり、その良い加減のゆるさがなんともタイらしくて、嬉しくなる。コハーは、誰も住んでいない無人島で、周囲はマリンパークに指定され、環境保全のためにブイが設定されている。そのために魚影も濃く、手付かずの海を楽しむことができる。コハーの魅力をオランダ人のオーナーのリサさんに聞くと、「マクロの生き物とジンベイザメ」という答えが返ってきた。島の周囲にはポイントは約20カ所あり、「コハーヌン」というポイントは、水中に17m~6mのチムニーがあり、中にはハタンポが群れている。ハードコ

ラールと言うよりは、紫と赤色のソフトコラールが豊富。「コハーラグーン」は、去年はフリソデエビがいたポイント。ニシキフウライウオや砂地にウミテングなど、マクロの面白いポイント。2匹だけのチンアナゴも健在。「コハーヤイ」の「ヤイ」は大きいという意味。大きなケーブがあって、そこを潜り抜けるとエアードームがあり、顔を上げてその中の空気を呼吸することができる。「コハーファイブ」は砂地で、トラフザメを見るポイント。また、昨年はコハー周辺にジンベイザメが回遊していることも多く、ジンベイザメとの水中遭遇がよくあったそうだ。その年によって、遭遇率は異なるようだが、是非、期待したい。



鍵井、実際にコハー潜ってみた

1本目、コハーラグーンに潜り込んだ。海面から大きく聳え立つ岩の合間を抜けて、 ボートは到着。世界各国から集まったダイバーがどんどんと海に吸い込まれていく。 エントリーして、水中を覗くと緩やかな傾斜の砂地が続いていた。そして、少し浅場 に目を向けるとバラクーダが気持ち良さそうに群れていた。水深16mラインをキー プして進んでいくと、スカシテンジクダイが群れるいくつもの小さな根が点在する。 そのひとつひとつが、クリーニングステーションになっていて、様々なお魚たちが集

まってくる。目立つのはやはりユカタハタなどの赤い魚など。そして彼らは、虎視眈々 とスカシテンジクダイを捕食しようと狙っている。スカシテンジクダイが群れているの は、根だけではなく、壁沿いに群れを作っている。それを狙って、中型のアジ類が八 ンティングしようと襲い掛かる。逃げ惑うスカシテンジクダイがキラキラと輝いて美し い。ガイドさんにマクロの生き物を教えて貰いながら進んでいく。少し潮の流れもあっ たが、ゆっくりリラックスしてこの海の全体を眺めることができた。

























またコハーヌンに潜りたい理由・・・・・・







2本目のコハーヌンは、なだらかな 傾斜のリーフを潮の流れにのっていく ポイントで、壁沿いには、黄色や赤色 のソフトコーラルが群棲する。このポ イントも同じようにスカシテンジクダイ が群れる根があり、そこには多くのア ジやフエダイなどの捕食者が集まって くる。また、ウミウシも見つかり、カラ フルな背景と共に撮影できる。そして <u>ここのメイン、</u>洞窟&エアードーム。3 つの洞窟の入り口があり、その中のふ たつが奥で繋がっていて、エアードー ムになっている。ダイバーが8名ほど顔 を出せる大きさ……らしい……。とい うのもこのエアードームを目的にエント リーしたが、最後のこのエアードームま で、私は辿り着かなかった。ローカル ガイドさんに「もっとペース配分をして よ~」と言いたくなるが、私の撮影の ペースがゆっくりで、止むを得なく行け なかったのだろう……。 別グループの ダイバーにそのエアードームの写真を 見せてもらった。何とも青い光が幻想 的だった。次回はしっかりとこの目に焼 き付け、写真に収めたい!









噂のヒンデン・ヒンムアン!

日本人ガイドの内田さんにどこのポイントが一番好きですか? と尋ねると「ヒンデン・ヒンムアン」と即答してくれた。「魚影が濃く、ブルーウォーターを眺めているだけでも色んな魚が現れ、またハンティングシーンもあるので、潜っていてとても楽しいです」。 私が、マクロの生き物は? と聞くと、「ワイドのシーンがすごくて、マクロの生き物まで目が届きません! (笑)」とのことだった。前日にこの情報をゲットしたので、翌日は、マクロのカメラは準備しないで、画角の違うワイドレンズのカメラを2台用意することにした。 内田

さんの説明によると、現地のタイ語で、「ヒン」は岩、デンは「赤」。ムアンは「紫」。岩肌に群棲する赤と紫のソフトコーラルから名付けられたとのこと。大物狙いのポイントで、マンタやジンベイザメの出現多々。また見物は、グルクンの群れをカスミアジやロウニンアジ、イソマグロがハンティングする光景だそうだ。外洋のポイントで、潮の流れがあるときもあるが、クロヒラアジやスカシテンジクダイが群れるなど、とても華やか、かつ賑やかなポイントだということでした。





鍵井、ヒンデン・ヒンムアン実際に潜ってみた









ヒンデン・ヒンムアンへのデイトリップの朝は早い。 ダイビングセンターでの集合時間は、朝の6時半。 片道3時間半~4時間の移動となる。そうと決まれば、 私は音楽と小説を用意し、その長旅をエンジョイす ることに。船の中に電源も見つけた(笑)。1本目に 潜り込んだのは、ヒンムアン。6mのトップリーフか ら65mに落ち込む細長い根。潮の当たる根の壁は、 一面紫のソフトコーラルに覆われている。その上に 様々なお魚が群れる。ホソフエダイ、キンセンフエ ダイなどが大きな群れを作り、彩りを添える。また 亀裂などには、スカシテンジクダイが群れていて、 そこにカスミアジやアジの群れがハンティングに掛か る。早朝でもないのに、そのハンティングは常に行 われていた。そのために、常に海の中には、動きが あり、たくさんの命が躍動していた。リーフの端に セジロクマノミとソフトコーラルの美しい場所を見つ けた。撮影しているとストロボ光に反射したスカシテ ンジクダイが慌て、それを狙ってアジやフエダイが 飛び込んでくる。その光景はとても美しく、3~4時 間かけてくる意味を知った。撮影している私のフィン をつつく者がいた。ガイドさんかな?と思ったが、撮 影に集中していたので、少し放っておいたが、さす がにと思い振り返ると、ゴマモンガラがフィンを突い ていた。もっと撮影したくて、カメラを構えたが、も う集中できない。ゴマモンガラの接近がフィンでは なく、身体に来た。少しでも撮影できた幸運を噛み しめながら、浮上を開始した。















Thailand







ピンク色のフィンソックスの意味・・・・

2本目に潜ったヒンデンも素晴らしかった。ガイドのスーパーチャンはマンタはカラ フルな色が好きなんだと、ピンク色のフィンソックスを履きだした。私のウェットスー ツの片腕の色も同じピンク色なので、これで完璧とエントリー(疑いはしない)。海 底近くに到着し、潮の流れの当たる場所へ。ヒンデンは緩やかな傾斜の根で、1ダ イブで1周できるほどのサイズ。潮の当たる箇所はさすがに魚影が濃く、ブルーウォー ターには、イエローバックフュージュラーが群れていた。壁には赤いソフトコーラル が群棲し、所々に黄色なども交じっているので、印象としてはとても明るい感じ。こ こでは同じようにスカシテンジクダイが群れ、そこにカスミアジなどがハンティングに

やってくる。残念ながら、マンタやジンベイザメは出現しなかったけど、ストロボを 発光すると見える真っ赤な壁はとても特別な場所に思えた。群れる小魚を狙ってユ カタハタがソフトコーラルの陰から虎視眈々と捕食のタイミングを狙っている。その 姿もとてもキュートだった。2本潜り終えて、正直な感想は、ヒンデン・ヒンムアン、 かなり満足度の高いポイントだった。今回は、潮の流れも程よく、じっくり楽しむこ とができたが、時折、潮流は早くなるということ。良いタイミングでエントリーしたい。 そして、次回はピンク好きのマンタに会いたい!











ピピ島周辺は、 初めて見る景色も…

最終日の3日目の1本目は、まずピダ島に向かった。ピダ島は、ピピ 諸島の一番南側に位置する2つの石灰岩でできた岩礁エリア。そこには、 ピダナイとピダノックというポイントがある。今回は、ピダ島の外側の島・ ピダノックで潜った。1ダイブで回り切れない大きさで、いくつかのポイ ントに分けて潜っていく。今回潜ったエリアの見所は、大きなイソバナの 群棲とキンセンフダイの群れ。少し透明度が悪かったが、大きな自然の 造詣とゆったりとした泳ぎのお魚の群れが、なんとも竜宮城を想像させ てくれた。マクロの生き物もウミウシやカクレクマノミなどがいた。2本 目は少し移動して、ピピレイ島のバイキングベイに潜った。切り立った見 事な崖の下での一直線のダイビング。潮流に乗りながら、ゆっくりダイ ビングをしていく。浅い水深に大きなイソバナを見つけたので、そのま ま深度を落とさずに浅瀬を泳いでいくと、水深6mに根を見つけ、イソ バナにお魚が付いているので撮影していると、根の表面に丸い粒がたく さん見つかった。これは何?と観察すると、どうやら、カイメンのよう。 大粒の雪のように降り積もっている。やっぱり初めて潜るポイントは色々 と刺激がある。そして思い切って壁にぶつかって波の砕ける水面下に行 くと、これまた面白い。まるでビッグバンのような趣のある水面下をたく さん撮影した。また水深10mくらいに行くと、今度は、海底から30cm くらの高さで、赤いヤギが群棲している…。知らない景色ばかり。そんな こんなでマクロの生き物はウミウシ以外撮影せずに、初めて見る景色の 連続に酔いしれていた。





















今回、行けなかった ポイント&ダイビングセンタ

その他にも、デイトリップの行先として、ドクマイ島のアネモネリーフ&シャークポイントがある。アネモ ネリーフ&シャークポイントは、ボートの移動時間が2時間半~3時間。4mのトップリーフの上は一面のセン ジュイソギンチャクの畑でインド洋固有種であるスカンクアネモネフィッシュ(セジロクマノミのインド洋版) カクレクマノミ、クマノミ、トウアカクマノミ、トマトクラウンフィッシュと5種類も見ることが出来る。またマ クロの生き物では、タイガーテールシーホース、ニシキフウライウオ、ウミウシなどが見つかる。シャーク ポイントは、3つの岩の周囲を楽しみながら、トラフザメに出会える可能性があるポイント。また根を覆う色 とりどりのソフトコーラルはとても見事。



アンダマン・ダイブ・アドベンチャー

共同オーナーであるオランダ人のリサさんの人格が反映さ れたフレンドリーなダイビングセンター。長年、一緒にやっ てきたチームだけあって、スムーズにダイビングが進行して いく。 スタッフは合計 15 名で、4 名のタイ人ダイブマスター とイギリス人などのインストラクターが常駐。シーズンにな ると沖縄のシーサーから内田友加里さんが派遣され、日本人 ゲストのケアに大活躍。ダイビングスタイルとしては1日2 ボートダイブが基本で、リクエストによって3ダイブができる 日も。1グループが4名までの少人数制。ゆっくり海中世界 を楽しむことができる。デイトリップに使用するボートはゲス トが20名乗れる大型船。ナイトロックスも完備。

































ボートダイビングから帰って来て、リゾートでシャワーを浴び、まずは夕日を眺めに海岸線に。後ろを振り向くと、ビーチ沿いに並ぶレストランが火を灯していく。なんとも南国らしい夢のような演出。どのお店も入りやすく、お値段もリーズナブル。ひとり 1000~1500 円くらいで、ちょっぴりお酒を飲んで、お腹いっぱいになる。またダイビングボートの乗り場周辺にはローカルの水上レストランもあり、そこでは新鮮なエビのお刺身なども楽しめる。基本的に食事は安いので気軽に色んなタイ料理を楽しんで欲しい。またメイン通りにはお土産屋さんやタイマッサージ店も多い。外国だという認識は必要だが、基本的には安全なので、夜の町歩き&お買い物も楽しんで欲しい。



お薦めのリゾートホテル

ランタ・アイランド・リゾート Lanta Island Resort

クロンダオビーチ沿いに位置するリゾート。緑溢れる敷地内には、白壁にトタン屋根とわらぶき屋根の素朴なバンガローが 並ぶ。バンガロー内は、タイル張りの床に、白を基調としたシンプルな造りになっている。全51室で、スタンダード、デラックス、 ビーチバンガローとカテゴリーがあり、目的・値段別で選ぶことができる。部屋で扇風機、共用バスルーム、冷蔵庫、WiFi(無料)、 エアコンが用意されている。また、アンダマン・ダイブ・アドベンチャーを併設してあるので、何かと便利。











ロイヤルランタ・アンド・スパ

Royal Lanta Resort and Spa

フラットで広大な敷地内は緑にあふれ、点在する伝統的なタイスタイル のヴィラ間にはボードウオークが張り巡らされている。ビーチ側にはスイミ ングプールやレストランなどの共有施設、その奥に3列に分かれたお部屋 が並ぶ。全47部屋6タイプのカテゴリーで、2段ベッドを配したファミリー



ルーム、広いバスルームを備えるロイヤルエグゼクティブ、そしてフルキッチン付きのスイートまで。客室には、クラシックな 木製家具、薄型テレビ、専用バルコニー(屋外シーティングエリア付)、冷蔵庫、広々としたバスルームが備わる。ビーチフロ ントのテラスでは、星空の下での食事も可能。







ツインロータス Twin Lotus Koh Lanta

12エーカーに及ぶ広大なトロピカルガーデンに囲まれたブティックリゾート。スーペリアからオーシャインビューのデラックス ルームなど様々なカテゴリーがあり、全81のエアコン付き客室には液晶テレビ、衛星放送チャンネル、DVD プレーヤー、 WiFi (無料)、ミニバー、バスルームには、シャワー、バスローブ、ヘアドライヤー、スリッパがある。 海沿いにはインフィニティプー ルとレストランがあり、いつでも海を感じることができる。宿泊できるゲストが大人のみという制限があり、カップル、ハネムー ン向けの大人のリゾートホテル。









レイジーデイズ・バンガロー Lazy Days Bungalows

スウェーデンのご夫婦がオーナーのナチュラルリゾート。街の中心地から少し離れた環境に位置する。 静かなバーン クロン コンに面し、目の前は美しいビーチが広がっている。敷地内には、ビーチフロントバンガロー3棟とバンガローの6棟がある。ど のバンガローからも海を眺めることができる。新しいリゾートで、かつバンガローの内装やレストランなどオーナーのセンスの 良さが感じられる。ベッドも全てツイン使用できるようになっており、日本人への心遣いもニクい。レストランメニューも新鮮な 魚介類を使用し人気。ビーチ治いにはレストランなどもあるので、滞在中は、街に行かなくてものんびり過ごすことができる。









